

自閉症児に効果のあるリラックス法



佐賀整肢学園こども発達医療センター
歯科室長

立川 義博 (たちかわ よしひろ)

1981年 九州大学歯学部 卒業
1981年 九州大学歯学部小児歯科学教室 入局
1984年 福岡市立こども病院 非常勤歯科医師
福岡市立心身障害福祉センター（現あいあいセンター）非常勤歯科医師
福岡県立肢体不自由児施設粕屋新光園
非常勤歯科医師
1995年～現在 佐賀整肢学園こども発達医療センター歯
科 勤務
2002～2006年 佐賀大学医学部 非常勤講師
2004～2009年 九州大学歯学部 非常勤講師
2004年 障害者歯科学会指導医
2005年 小児歯科学会専門医

30年前、障害者の診療を始めた頃、どの子の口の中も虫歯、虫歯で溢れていました。こりゃ急いで治療してあげなくちゃ、ウィーンウィーンと削りまくったのです。なんとか全員の虫歯の治療を終えて、中田教授から教えられた小児歯科の鉄則、定期診査を始めてみたら、びっくり。ちょっと目を離していた際に、処置した歯のほとんどが充填物のマージンから2次カリエス、虫歯再発のオンパレード。清掃不良であることは認識していたのですが、虫歯治療にかまけて歯磨き指導はほったらかしにしていました。その痛烈なしっぺ返しが、虫歯、虫歯、虫歯の再発です。健常児とは比べものにならないくらい蝕感受性の高さに驚き、悟ったのです。「障害者歯科は、治療よりも予防」、予防なしの治療は自己満足にすぎないと。そして歯磨きをメインにおいた予防を模索し始めました。今とは違い当時は、予防は不人気。さらに歯磨きは虫歯予防には効果なしというのが定説でした。しかし、予防に熱心な柏木先生からの力添えを頂き、10年がかりで今の虫歯予防システムの原型を作ることができました。

これを臨床応用して、たくさんの障害児を虫歯から救いたいと思い、佐賀整肢学園に移りました。しかし、保護者さんからは「予防はいいから、早く治療して」と言われ、介助の面々からは「歯磨き不良とうるさく言われても、みんな嫌がるし、口は開けてはくれないし、仕事が増えてウンザリ」と不満をこぼされ、前途多難の日々でしたが、歯科ができてから室内の臭いが減ったという神の声のおかげで、転覆しかかっていた歯科の評判を持ち直すことができました。

日々予防に専念しているうちに、保護者のみなさんの予防意識も高まり、連絡せずとも進んで定期診査に来院してくれるようになりました。そして口腔清掃状態も著しく改善、虫歯予防は順調に効果を表してきました。同時に喜んで歯科に来る子の数も日増しに増えてきました。予防は、治療と違いほとんど無痛下に処置できます。我慢することがあっても短時間ですみます。そして来院するたび同

じ予防処置を受けますので、知的障害をもった、それも重度な子どもたちでも、予防処置は恐くないことを認識し、十分に適応可能であることがわかりました。予防ができれば、治療のNEEDは激減できる。理想の実現だ。やったねと喜びに浸った時でした。

しかし、その喜びも長くは続きませんでした。原因は自閉症の増加です。彼らは、あまりに強い恐怖心のため、歯科器具に対する脱感作トレーニングを受け入れてくれません。器具を見せようとしただけで、瞬時にチェアーから飛び降りてしまいます。逃げられないようにと押さえれば大パニック。知的障害の子ではうまくいくShow-Doが全く使えません。予防すらさせてくれない自閉症。全身麻酔で治療するしか打つ手はないのかと途方に暮れました。

そんな時、ある自閉症児の存在に気づきました。全く嫌がることなくネットに入り、注射やタービン、当然バキュームも難なく受け入れているのです。当時はできるだけレストレーナーを使わない方針でした。にもかかわらず、なぜネットに入っているかと言えば、激しい体動、そして大パニック、レストレーナーなしでは診査すら困難な、極めて大変な患者さんだったのです。そんな彼がネットを利用するうちに、全く別人と見間違ふほどのおりこうさんになっていました。彼を見て、もしかしたら自閉症の人とネットは相性がいいのかも？と思ったのが、このリラックス法を始めるきっかけになりました。そこで今日は、当科で発案したリラックス法についてご紹介しようと思います。